

総合評価落札方式(営繕工事)に係る「自己採点方式」の実施について

1 自己採点方式とは

自己採点方式とは、発注者が定める評価項目について入札者が自己採点し、その得点とその他評価項目の得点を合わせた技術評価点及び入札価格をもとに算出した評価値が最も高い者について、技術資料等の審査を行うものです。

2 自己採点の対象

実績評価型：すべての評価項目

技術評価Ⅰ・Ⅱ型：技術提案を除く評価項目

3 実施の時期

平成26年6月1日以降に公告する工事から実施

4 自己採点方式の概要

(1) 自己採点表の作成・提出について

- ① 入札者は「自己採点表」の様式を、県HP「広島県の調達情報」からダウンロードします。
- ② ダウンロードしたファイルから、公告文に記載された総合評価の型式のシートを選択します。
- ③ そのシートに、「商号又は名称」、及び公告文に添付された自己採点表(落札者決定基準 別記様式1-〇)に記載のとおり、発注者、工事名、工事箇所、評価項目、評価内容、評価基準、配点等を入力します。
- ④ 入札者は、公告の別記「総合評価落札方式に関する事項」の留意事項、「自己採点表」に記載の評価基準に留意のうえ、各評価項目の自己採点を行い、「自己採点表」の自己採点欄に記入します。
- ⑤ 作成した「自己採点表」を技術資料の一部として提出します。(別紙1：提出イメージ参照)

(2) 発注者の審査及び落札者の決定

- ① 提出された「自己採点表」と「入札価格」をもとに入札者全員の評価値*を算出します。
(※技術評価Ⅰ・Ⅱ型は、技術提案の広島県採点分も含みます。)
- ② 最も高い評価値の者のみ技術資料を審査します。(別紙2：審査後イメージ参照)
- ③ 自己採点表の得点に誤りがあった場合、以下の基準に応じて評価値を決定します。
 - ・過大評価(技術資料審査の結果、得点が下がる場合)…1/2点とする(審査後の得点×1/2)
 - ・過小評価(技術資料審査の結果、得点が上がる場合)…修正しない(「自己採点表」における得点そのまま)
- ④ 審査の結果、自己採点が正しかった場合、自己採点表に誤りがあった場合でも最高評価値の入札者の変更がない場合は、当該入札者を落札候補者として決定します。最も高い評価の者が変動する場合、再度最も高い評価の者の審査を行い、以降決定するまで繰り返します。
- ⑤ ④で決定した落札候補者について、(低入札価格調査、) 資格要件の確認を行い、総合評価審査委員会等を開催し、落札者を決定します。

(3) その他留意事項

- ① 評価項目ごとの得点は、少数第1位止め(第2位を四捨五入)とします。

-
- ② 自己採点方式では、原則として提出された「自己採点表」等をもとに最高評価値の入札者が提出した技術資料のみを審査し、評価値が2位以下の者については審査を行わないため、公表する技術評価点及び評価値は正しいものとは限りません。
 - ③ 自己採点の結果が未記入（内容が確認できない場合を含む）の項目については0点とし、また、「自己採点表」が未提出の場合は入札を無効とします。
 - ④ この自己採点表の未提出あるいは記載内容によって、以降の入札の指名等について不利益な取り扱いを行うことはありません。
-

別紙1：提出時イメージ

記入 自己採点表

商号又は名称：

〇〇建設株式会社

発注者：

広島県知事 湯崎 英彦

自己採点（応札者）欄に各評価項目の自社の点数を記入すること。

工 事 名	〇〇〇〇工事					留意事項・評価基準	
工 事 場 所	〇〇市△△					公告添付の自己採点表のとおり記載を参考に自己採点	
	評価項目	評価内容	評価基準	配点	自己採点 (応札者)	評価結果 (発注者)	
価格以外の 評価点	1 企業の施工能力 について	(1) 過去15年間の同種・同規模の施工実績	①同種工事で、延床面積が当該工事の2倍以上の施工実績あり	1.0	0.5		
		同種工事：〇〇造による〇〇工事（新築工事改築又は増築工事）	②同種工事で、延床面積が当該工事の規模以上の施工実績あり	0.5			
		同規模：〇〇工事の場合は床面積の合計が〇〇㎡以上	③その他	0.0			
		(2) 過去4年間の工事成績評定点の平均点 （建設工事入札参加資格者名簿に掲載した当該業種の平均工事成績点）	①85点以上	3.0	2.0	78.2	
			②65点以上 85点未満 （3.0×（平均点－65）／20）	3.0 ～0.0			
			③65点未満	0.0			
		(3) 当該業種における過去2年間の優良建設 工事の表彰に該当	①該当あり	1.0	0.0		
			②該当なし	0.0			
	小 計		5.0	2.5			
	2 配置予定技術者 の能力について	(1) 過去15年間の主任（監理）技術者としての 施工実績	①同種工事で、延床面積が当該工事の2倍以上の公共建築工事標準仕様書等を適用した施工実績あり	3.0	3.0		
		同種工事：〇〇造による〇〇工事（新築工事改築又は増築工事）	②同種工事で、延床面積が当該工事の規模以上の公共建築工事標準仕様書等を適用した施工実績あり	1.5			
		同規模：〇〇工事の場合は床面積の合計が〇〇㎡以上	③その他	0.0			
		(2) 継続教育（CPD）の取組状況	①継続教育の証明あり（12時間以上取得）	1.0	0.5		
			②継続教育の証明あり（6時間以上12時間未満取得）	0.5			
			③継続教育の証明なし（6時間未満取得、取得なし）	0.0			
		(3) 主任（監理）技術者が当該業種における 過去2年間の優秀な技術者の表彰に該当	①該当あり	1.0	0.0		
			②該当なし	0.0			
	小 計		5.0	3.5			
	3 地域の精通性・ 貢献度について	(1) 地域内における本店の有無	①（Ⅰ：建設事務所（支所）管内、Ⅱ：市区町 内、Ⅲ：旧市町村（区）内）に本店あり	2.0	1.0		
			②（Ⅰ：県内、Ⅱ：建設事務所（支所）管内、Ⅲ： 市町内）に本店あり	1.0			
③その他			0.0				
(2) 近隣地域における同種・同規模の過去10 年間の施工実績		市区町内の同種工事で、延床面積が当該工事の 規模以上の施工実績あり	1.0	0.0			
		同種工事：〇〇造による〇〇工事（新築 工事改築又は増築工事） 同規模：〇〇工事の場合は床面積の合計が 〇〇㎡以上	②その他			0.0	
(3) 広島県地震被災建築物応急危険度判定士の 認定状況		①企業内に8名以上	1.0	0.5			
		②企業内に4名以上8名未満	0.5				
		③企業内に4名未満	0.0				
小 計		4.0	1.5				
4 指名除外の状況	(1) 過去1年間における指名除外措置の有無	①該当あり	-1.0	0.0			
		②該当なし	0.0				
	小 計		-1.0	0.0			
合 計			14.0	7.5			
標準点	100点						
加算点（価格以外の評価点）	価格以外の評価点の合計を20点換算						
技術評価点	標準点＋加算点						
評価値	（技術評価点／入札価格（千円））×1,000						

別紙2：審査後イメージ

別記様式第1-1号（建築一式工事）

総合評価方式（実績評価型）落札者決定基準

自己採点表

商号又は名称：〇〇建設株式会社

発注者：広島県知事 湯崎 英彦

自己採点（応札者）欄に各評価項目の自社の点数を記入すること。

工 事 名	〇〇〇〇工事					
工 事 場 所	〇〇市△△					
評価項目	評価内容	評価基準	配点	自己採点 (応札者)	評価結果 (発注者)	
1 企業の施工能力について	(1) 過去15年間の同種・同規模の施工実績	①同種工事で、延床面積が当該工事の2倍以上の施工実績あり	1.0	0.5	0.5 (1.0)	
		②同種工事で、延床面積が当該工事の規模以上の施工実績あり	0.5			
		③その他	0.0			
	同種工事：〇〇造による〇〇工事（新築工事改築又は増築工事）					
	同規模：〇〇工事の場合は床面積の合計が〇〇㎡以上					
	(2) 過去4年間（建設工事）当該業種の	①同種工事で、延床面積が当該工事の2倍以上の公共建築工事標準仕様書等を適用した施工実績あり	3.0	2.0	78.2	2.0
			3.0 ～0.0			
			0.0			
	(3) 当該業種の工事の表彰に	①同種工事で、延床面積が当該工事の2倍以上の公共建築工事標準仕様書等を適用した施工実績あり	1.0	0.0	0.0	
			0.0			
0.0						
小 計			5.0	2.5	2.5	
2 配置予定技術者の能力について	(1) 過去15年間の主任（監理）技術者としての施工実績	①同種工事で、延床面積が当該工事の2倍以上の公共建築工事標準仕様書等を適用した施工実績あり	3.0	3.0	0.8 (1.5)	
		②同種工事で、延床面積が当該工事の規模以上の公共建築工事標準仕様書等を適用した施工実績あり	1.5			
		③その他	0.0			
	同種工事：〇〇造による〇〇工事（新築工事改築又は増築工事）					
	同規模：〇〇工事の場合は床面積の合計が〇〇㎡以上					
	(2) 過去4年間（建設工事）当該業種の	①同種工事で、延床面積が当該工事の2倍以上の公共建築工事標準仕様書等を適用した施工実績あり	1.0	0.5	0.5	
			0.5			
			0.0			
	(3) 当該業種の工事の表彰に	①同種工事で、延床面積が当該工事の2倍以上の公共建築工事標準仕様書等を適用した施工実績あり	1.0	0.0	0.0	
			0.0			
0.0						
小 計			5.0	3.5	1.3	
3 地域の精通性・貢献度について	(1) 地域内における本店の有無	Ⅰ：旧市町村（区）内に本店あり	2.0	1.0	1.0	
		Ⅱ：（Ⅰ：県内、Ⅱ：建設事務所（支所）管内、Ⅲ：市町内）に本店あり	1.0			
		③その他	0.0			
	(2) 近隣地域における同種・同規模の過去10年間の施工実績	市区町内の同種工事で、延床面積が当該工事の規模以上の施工実績あり	1.0	0.0	0.0	
		同種工事：〇〇造による〇〇工事（新築工事改築又は増築工事）				
		同規模：〇〇工事の場合は床面積の合計が〇〇㎡以上	0.0			
	(3) 広島県地震被災建築物応急危険度判定士の認定状況	①企業内に8名以上	1.0	0.5	0.5	
		②企業内に4名以上8名未満	0.5			
		③企業内に4名未満	0.0			
	小 計			4.0	1.5	1.5
4 指名除外の状況	(1) 過去1年間における指名除外措置の有無	①該当あり	-1.0	0.0	0.0	
		②該当なし	0.0			
		小 計				-1.0
	合 計			14.0	7.5	5.3
標準点	100点					
加算点（価格以外の評価点）	価格以外の評価点の合計を20点換算					
技術評価点	標準点+加算点					
評価値	（技術評価点／入札価格（千円））×1,000					

○過小評価
～審査の結果、得点が高くなる場合～
修正しない
・自己採点：0.5点
・県の審査：1.0点
→ 評価結果：0.5点

○過大評価
～審査の結果、得点が下がる場合～
「審査後の点」×1/2とする
・自己採点：3.0点
・県の審査：1.5点
→ 評価結果：0.8点（1.5×1/2）

総合評価「自己採点方式」のフロー

